

《化学物質過敏症とは》

一度に多量の化学物質に曝露（化学物質を浴びること）されたり、少量でも長期に渡って曝露され続けることによって、その人の体の許容量を超えたときに、拒否反応として一気に発症します。

一度過敏性を獲得すると、その後は、ごく微量の化学物質に接しただけで強い拒否反応を繰り返し示すようになります。たいていは、発症のきっかけになったものだけでなく、それ以外のさまざまな化学物質にも反応を示すようになります。

それを多種類化学物質過敏症（Multiple Chemical Sensitivity : MCS）といい、以後は、拒否反応を示すさまざまな物質から逃げ回るといった生活が始まります。重度になると自宅にも居場所がなくなります。これが、化学物質過敏症です。

発症者の主な症状

- 目や鼻・喉の刺激感、嗅覚異常
- 息苦しさ、喘息
- 頭痛、倦怠感、疲労感、
- 集中力・思考力の低下
- 目のかすみ、視力低下、めまい
- 関節痛、筋肉痛
- 不安、不眠、うつ状態
- 腹痛、下痢
- 湿疹、蕁麻疹、かゆみ
- 動悸、息切れ、不整脈

この他にもさまざまな症状を訴える人がいます。また、重症になると、日用品のほとんどのものが使えない、家族にも近寄れないなどの状況になります。また、電磁波にも反応するようになると、家電製品がずっと使えなくなります。

発症者が反応を示す主なもの

- 防虫剤類（無臭であっても有害性は高い）
- 殺虫剤（防シロアリ剤、ゴキブリ退治、蚊取り線香なども）
- 合成洗剤類（衣類用、食器用、柔軟剤、漂白剤ほか）
- 清掃用洗剤（バス・トイレほか）
- 消臭剤、芳香剤等
- 各種化粧品（ヘアケア・ボディケア用品なども）
- クリーニングの溶剤（服などに染みこんでいる）
- 農薬類（除草剤・殺虫剤・消毒剤ほか）
- 塗料やインクの溶剤（筆記用具、印刷物ほか）
- 電磁波（家電製品・パソコン・携帯電話ほか）
- 煙草や野焼きの煙
- 排気ガス

発症の主なきっかけとして考えられること

- 新築やリフォーム（シックハウス）
- 入園や入学（シックスクール）
- 転勤や職場の配置転換（シックビル）
- 近隣の農薬散布
- 新しい家具や電気製品の購入
- 新しいIT機器の導入
- 職場や家族からの受動喫煙
- 歯の治療

このような不自由があります

- 合成洗剤で洗った衣類や防虫剤の付着したものを身につけている人に近寄れない。
- 学校や職場などの建物の中に居られない。
- 車内消毒や乗客からの影響で乗り物に乗れない。
- 本や新聞など印刷物が読めない。
- 銀行・郵便局・デパート・スーパーマーケットなどに行かれない。

- 家電製品や携帯電話・パソコンが使えない。
- 身内や近隣の結婚式やお葬式に出席できない。
- 外食や旅行、友達の集まりなどに参加できない。
- 隣家の洗濯物から漂ってくる合成洗剤や柔軟材の成分で具合悪くなる。
- 病院で診療（内科的診療・歯の治療・お産・怪我・入院ほか）を受けるのが困難。
- 非常時に一般の人と同じように避難できない。
- 家族に大きな負担や我慢をさせてしまう。

協力していただいて助かったこと

（たくさんあるのですが一例をあげさせていただきます）

- 家族や友人が衣類の洗剤を替えてくれた。
- 隣人が庭木に薬を撒く薬剤を替えてくれた。
- 学校の面談を、開け放した窓際に席を移して行なってくれた
- 家族や友人が禁煙してくれた。
- 親戚の仏事でお線香をたかないでくれた。
- 職場の同僚が香水などの使用を控えてくれた。
- 近所の工事の予定を前もって知らせてくれた。
- 近隣農家が農薬散布を事前に知らせてくれた。
- 近隣で野焼きをやめてくれた。

《治療は》

有害物質を生活環境から取り除く、有害物質を体外に出す、免疫力を高める、が基本的な治療です。そのために私たちは栄養バランスがとれた食事を摂りながら、有酸素運動や温浴をして汗を流し、汗とともに有害物質を排出させる努力、そして、これ以上取り込まない生活を心がけています。しかし、回復には数年という長い時間と忍耐、そして努力が強いられます。でも、私たちは早く治りたい一心で頑張っています。

《どこかで出会ったら》

電車に乗るのがつらくても、病院の待合室や学校の建物がつらくても、どうしてもしなければならぬことはたくさんあります。

電車や病院などで、洗いざらしの古い服を着て、活性炭入りの大きなマスクをした人がいたら、化学物質過敏症の人かな、と思ってください。そして、困っているようでしたらちょっと声をかけてくださいませんか。

《子どもへの影響が大きい》

化学物質の中でも空気より重い化学物質は地面や床近くに溜まっています。その低い位置の空気を吸っている子どもは大人より化学物質を多く取り込んでいます。

また、脳や体の発達が未熟なほど、取り込んだものの影響は大きく受けます。いまの大人たちが子ども時代を過ごしてきた頃より、身の回りの化学物質は圧倒的に増えてきています。今の子どもたちが、化学物質から受ける影響や危険はととても大きいのです。次の時代を担う子どもたちが、安全で健康な生活を送れるように、いま、できることを一緒に考えていきませんか。

*平成21年10月、国に病名認定され、ようやく保険診療が受けられるようになりました。

【参考になる書籍】

「化学物質過敏症」宮田幹夫 保健同人社
「化学物質過敏症から子どもを守る」北條祥子 芽ばえ社
「化学物質過敏症」柳沢幸雄・石川哲・宮田幹夫 文芸春秋社

【主な専門医療機関】

北里研究所病院 臨床環境医学センター
東京都港区白金 5-9-1 03-3444-6161 (代)
旭川医科大学病院 産科婦人科
北海道旭川市緑ヶ丘東 2条 1-1-1 0166-65-2111
そよ風クリニック
東京都杉並区荻窪 2-41-12-2F 03-5335-5135
この他、東京労災病院、関西労災病院、国立病院機構～盛岡・相模原・南岡山・高知病院、京都、岡山などで診療可。CS 支援センターにて詳細をお知らせします。

【支援機関】

NPO 法人化学物質過敏症 (CS) 支援センター
神奈川県横浜市中区南仲道 4-39 石橋ビル 5F
かながわ市民運動活動スペース内
045-222-0685
ホームページアドレス <http://www.cssc.jp/>
相談受付： 045-663-8545
水・金 (祝日を除く) 10:00～12:30 13:30～16:00

《お問合せ先》

CS 支援センター内 リーフレット作成協力係
e-メール yokohama@cssc.jp

このリーフレットは CS 支援センター会員有志の基金協力によって作られています。お問い合わせや、ご協力くださる方は上記までお願いします。

化学物質過敏症

(Chemical Sensitivity : CS)

ご理解とご協力をお願いします

《困っています》

身の回りで当たり前のように使われている、さまざまな化学物質に反応して苦しむ化学物質過敏症。そのために、仕事ができない、学校に行かない、買い物に行かないなど、通常の生活ができずに困っている人が大勢います。

《社会の中で》

発症者はごく微量の化学物質にも反応するので、外部との接触が難しく、不便な生活を強いられています。医療や教育の現場での理解も十分ではなく、「気にしすぎ」「怠け者」「わがまま」などとされ、つらい思いをしている人もいます。また、原因を追究すると、現代の生活にかかわるほとんどのものを否定することになってしまうため、社会や家族からの理解もなかなか得られず孤立しがちです。

《誰にでも関係あるの?》

それまではまったく異常がなかったのに、あるときを境に突然発症する花粉症。それと同じように、あなたも突然化学物質過敏症の発症者になるかもしれません。現代の日本社会は、膨大な種類や量の化学物質であふれかえっています。いま無事だからといって、他人事といっってはられないのです。

